

# 平成24年度病害虫発生予報第2号(5月予報)

## 今月のトピックス

## イネミズゾウムシ (水稻)

学名 : *Lissorhoptrus oryzophilus*

葉を食害する成虫



## 生態と被害

イネミズゾウムシは、北アメリカ原産で、朝鮮半島、中国東部、台湾に分布し、本邦では国内全域に生息する。

成虫の体長は約3mm。体色は全体的に灰褐色をおび、背中の中央部に不整形の黒い斑紋がある。両性生殖を行う個体群と単為生殖を行う個体群があり、本邦に生息するものは単為生殖を行う個体群である。

沖縄では年に2世代を経過する。越冬成虫が移植後のイネ葉を食害し、葉脈に沿って幅1mm、長さ1～数cmの線状の食痕を残す。幼虫は根を食害し、葉の伸長阻害や分げつ抑制の原因となる。イネ科のほかに、カヤツリグサ科、ツククサ科などにも寄生する。

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

## I 5月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	40	50	20
平 年 並	40	30	30
低い(少ない)	20	20	50

(平成24年4月20日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	24.0	26.7	21.8	231.6	145.8
宮古群島(宮古島)	24.8	27.5	22.7	207.7	151.1
八重山群島(石垣島)	25.7	28.3	23.6	206.6	162.3

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 5月の発生予報概要

作 物	病 害 虫 名	発 生 量		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
さとうきび	メイチュウ類	多	やや多*	並
マンゴー	ハダニ類	やや多	—	—
へちま	モザイク病	並	—	—
	ヒメクロウリハムシ	並	—	—
きゅうり(施設)	うどんこ病	並	—	—
にがうり(施設)	うどんこ病	並	—	—
	斑点病	並	—	—
	ミナミキイロアザミウマ	やや多	—	—
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	並	—	—
オクラ	アブラムシ類	—	—	並

※例年との比較を示す。

## III その他注意すべき病害虫等

※本文中では○(白丸)にて表記

作 物	病 害 虫 名	対 象 地 域		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
さとうきび	メイチュウ類			
	サキシマカンシャクシコメツキ		○	○
	アオドウガネ		○	
マンゴー	炭疽病	○	○	○
	うどんこ病	○		
	チャノキイロアザミウマ	○	○	○

### Ⅲ その他注意すべき病虫害等

※本文中では○(白丸)にて表記

作物	病虫害名	対象地域		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
マンゴー	ハダニ類		○	
とうがん(施設)	ミナミキイロアザミウマ		○	
にがうり(施設)	うどんこ病		○	

#### ☆ 予報の見方 ☆

「発生程度」は平年との比較を示しています。そのため、毎年その月で高い数値が続いた場合には、その月の「発生程度」は密度が高くても「並」として発表されます。前月との多少の比較はグラフを参考にして下さい。

# 平成24年度沖縄群島病害虫発生予報第2号(5月予報)

## I 5月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	40	50	20
平 年 並	40	30	30
低い(少ない)	20	20	50

(平成24年4月20日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	24.0	26.7	21.8	231.6	145.8

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 5月の発生予報および防除上の注意事項

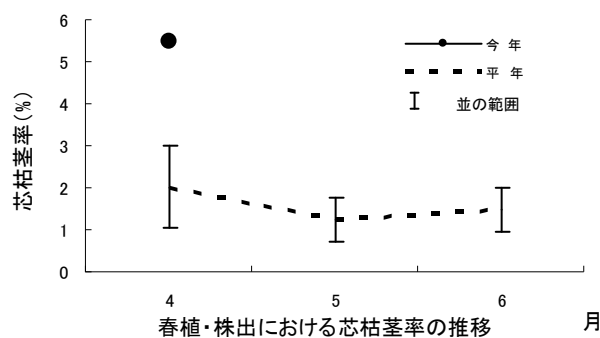
### 1 さとうきび

#### (1) メイチュウ類

発生程度 : 多

予報の根拠

4月下旬の調査の結果、新植・株出圃場における芯枯茎率は5.5%(前年5.0%、平年2.0%)と平年より高かった。



<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- c 植付時や培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。
- d 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号(平成24年4月5日付)参照。

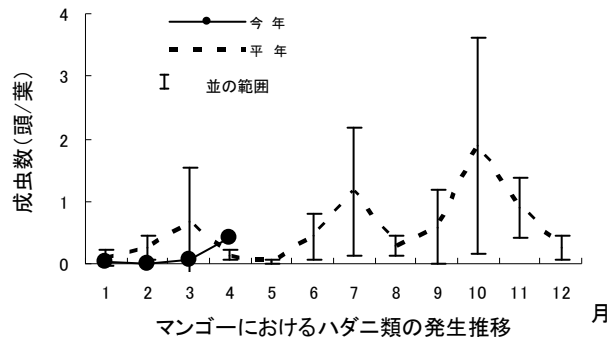
## 2 マンゴー

### (1) ハダニ類

発生程度 : やや多

予報の根拠

- a 4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.4頭(前年0.4頭、平年0.1頭)と平年より多かった。
- b 発生していた種類はマンゴーツメハダニであった。



<防除上注意すべき事項>

- a 果実に寄生すると果皮がくすんだように白化する。
- b ハダニ類は多発すると防除が困難になるので早期発見・早期防除に努める。

### ○ 炭疽病の防除対策

- a 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
- b 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- c 果実肥大期は、治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

### ○ うどんこ病の防除対策

- a 4月下旬の調査の結果、一部園地において発生が確認された。
- b 罹病した部位はビニール袋に入れて、速やかに施設外に持ち出し処分する。
- c 通風採光をよくする。

### ○ チャノキイロアザミウマの防除対策

- a 着果期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
- b 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- d 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

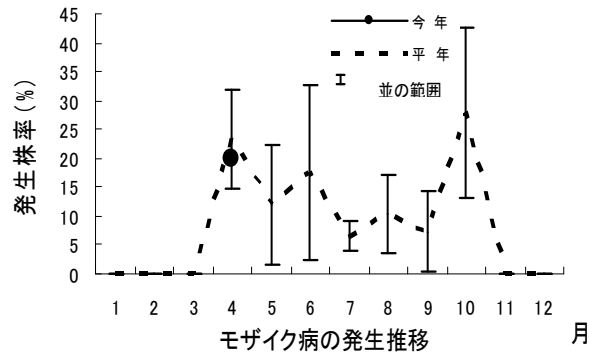
### 3 へちま

(1) モザイク病

発生程度 : 並

予報の根拠

4月下旬の調査の結果、発病株率は20.0% (平年23.3%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

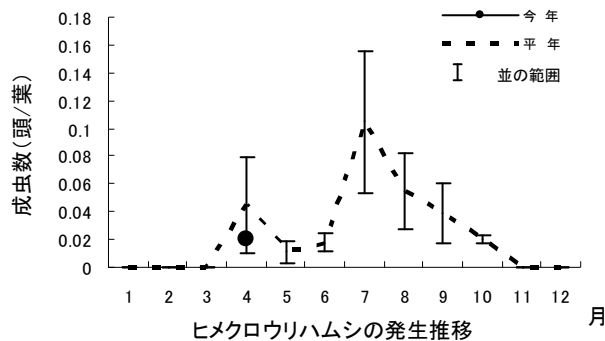
- a 発病株は抜き取り、処分する。
- b シルバーポリテープ等を利用して飛来を防止する。
- c 圃場周辺の雑草は、媒介虫であるアブラムシ類の発生源となるので除草する。

(2) ヒメクロウリハムシ

発生程度 : 並

予報の根拠

4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭未満(平年0.1頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- a シルバーマルチを利用し、成虫の飛来防止に努める。
- b 成虫の食害および産卵防止のため、生育初期は寒冷紗やビニールで被覆する。
- c 定植時に粒剤を施用し、幼虫の発生を予防する。

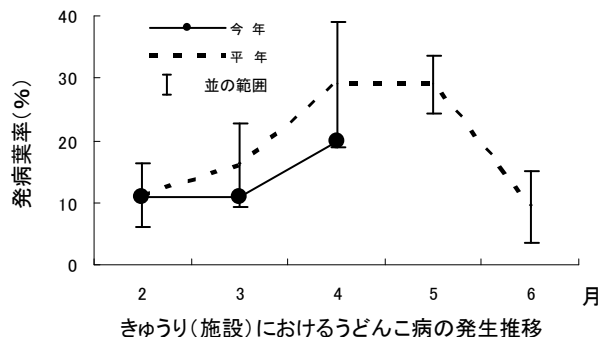
## 4 きゅうり(施設)

### (1) うどんこ病

発生程度 : 並

予報の根拠

4月下旬の調査の結果、発病葉率は19.8%(平年29.0%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- 老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋に入れるなどして持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

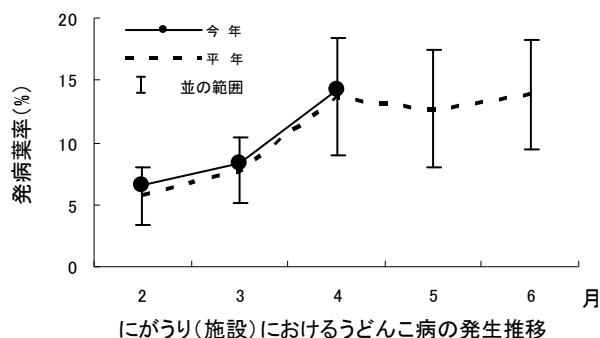
## 5 にがうり(施設)

### (1) うどんこ病

発生程度 : 並

予報の根拠

4月下旬の調査の結果、発病葉率は14.2%(前年19.5%、平年13.7%)と平年並であった。



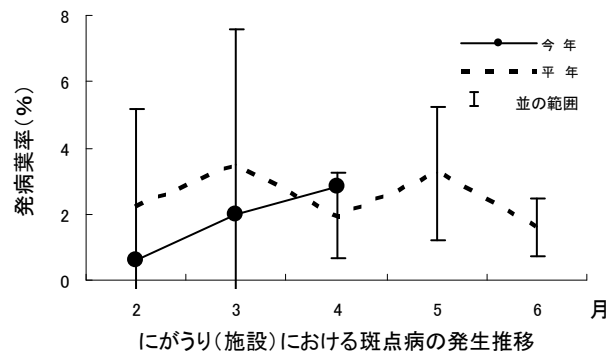
<防除上注意すべき事項>

- 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- 老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋に入れるなどして持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

(2) 斑点病

発生程度 : 並  
予報の根拠

4月下旬の調査の結果、発病葉率は2.8% (前年0.7%、平年1.9%)と平年並であった。



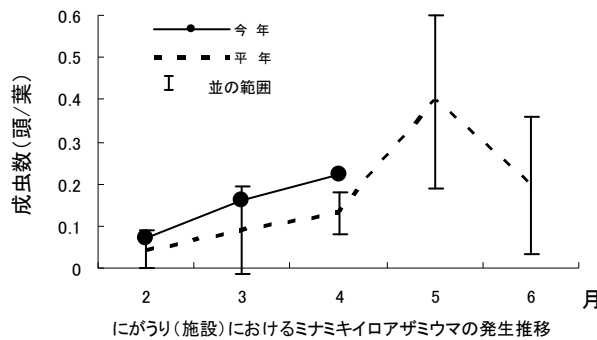
<防除上注意すべき事項>

- 老葉や病葉は発生源になるので除去し、圃場外に持ち出して処分する。
- 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- 多湿にならないよう、施設内の換気に注意する。
- 急激に症状が拡大するので中～下位葉をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。

(3) ミナミキイロアザミウマ

発生程度 : やや多  
予報の根拠

4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.22頭 (前年0.12頭、平年0.13頭)と平年よりやや多かった。



<防除上注意すべき事項>

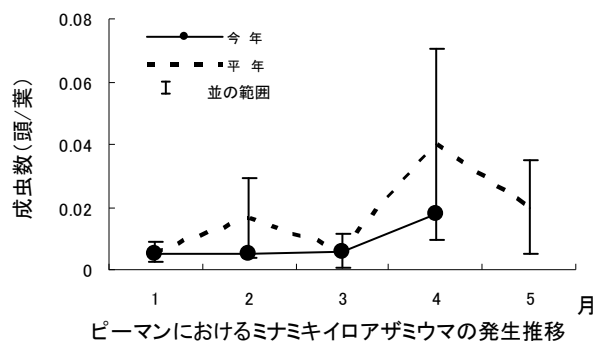
- 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- 施設の出入口、天窓、側窓にはネット資材等を張り成虫の飛来侵入を防ぐ。
- 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



## 6 ピーマン

- (1) ミナキイロアザミウマ  
発生程度：並  
予報の根拠

- a 4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.02頭(平年0.04頭)と平年並だった。  
b 気象予報によると、向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率が共に40%と予想されており、今後の気温上昇に伴い発生が助長されると考えられる。



### <防除上注意すべき事項>

- a 本虫はウイルス病の媒介虫であるので、発生には注意する。  
b 施設の入出口、天窓、側窓にはネット資材等を張り成虫の飛来侵入を防ぐ。  
c 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。  
d 栽培終了後に蒸しこみ処理を行い、施設外への分散を防止する。

# 平成24年度宮古群島病害虫発生予報第2号(5月予報)

## I 5月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	40	50	20
平年並	40	30	30
低い(少ない)	20	20	50

(平成24年4月20日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	24.8	27.5	22.7	207.7	151.5

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 5月の発生予報および防除上の注意事項

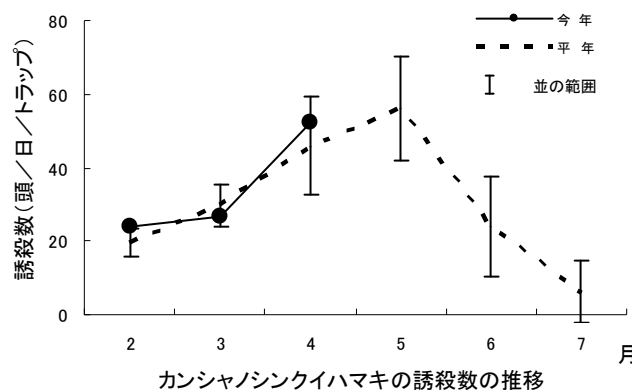
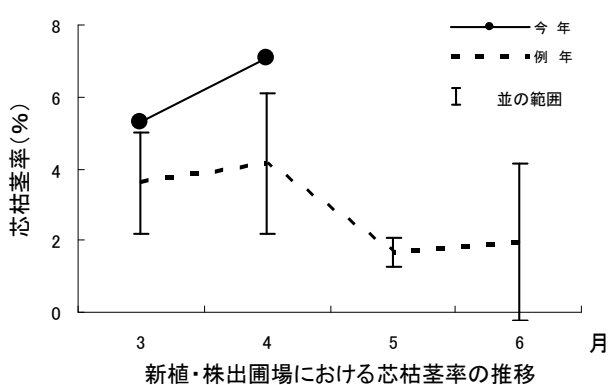
### 1 さとうきび

#### (1) メイチュウ類

発生程度 : やや多

予報の根拠

- a 4月下旬の調査の結果、新植・株出圃場における芯枯茎率は7.1%(前年5.3%、例年4.1%)と例年より高かった。
- b 4月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによる、トラップ当たり日当たり誘殺虫数は52.2頭(前年26.6頭、平年45.9頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- c 植付時や培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。
- d 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号(平成24年4月5日付)参照。

- サキシマカンシャクシコメツキ(ハリガネムシ)の防除対策
  - a 4月の合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は、0.5頭(前年0.2頭、平年0.6頭)と平年並であった。
  - b 更新圃場は速やかに古株などの残渣を処理し、植え付けまでに数回耕耘して幼虫密度の低減を図る。
  - c 培土時に他の土壌害虫の防除も兼ねた薬剤を選定し施用する。
- アオドウガネの防除対策
  - a 予察灯による本種成虫の捕獲数は例年5月から急増し、6～7月にピークを迎える。
  - b 宮古地区においては、4月下旬から全域に誘殺灯が設置されている。地域全体で次世代の密度低減を図るため、誘殺灯を適切に管理する。

## 2 マンゴー

- 炭疽病の防除対策
  - a 4月中旬の調査の結果、一部施設で炭疽病の発生がみられた。
  - b 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
  - c 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
  - d 果実肥大期は、治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。
- チャノキイロアザミウマの防除対策
  - a 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
  - b 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
  - c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
  - d 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ハダニ類の防除対策
  - a 4月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭未満(前年2.2頭、平年1.5頭)と平年より少なかったが、一部圃場で多発がみられた。
  - b 5月は果実肥大期にあたるので、袋がけ前の防除を徹底する。

## 3 とうがん(施設)

- ミナミキイロアザミウマの防除対策
  - a 4月中旬の調査の結果、ミナミキイロアザミウマの葉当たり成虫数は2.6頭(前年0.1頭、例年1.2頭)、つる先当たりの成虫数は5.2頭(前年1.1頭、例年4.7頭)と例年よりやや多かった。
  - b 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
  - c 施設の出入口、天窓、側窓にはネット資材等を張り成虫の飛来侵入を防ぐ。
  - d 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。
  - e 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
  - f 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

## 4 ながうり(施設)

- うどんこ病の防除対策
  - a 4月中旬の調査の結果、うどんこ病の発病葉率は22.2%(前年36.5%、例年22.1%)と例年並であった。
  - b 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
  - c 老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋に入れるなどして持ち出し処分する。
  - d 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
  - e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

# 平成24年度八重山群島病害虫発生予報第2号(5月予報)

## I 5月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	40	50	20
平年並	40	30	30
低い(少ない)	20	20	50

(平成24年4月20日付沖縄气象台発表・沖縄地方1か月予報)

### 平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	25.7	28.3	23.6	206.6	162.3

(沖縄气象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

## II 5月の発生予報および防除上の注意事項

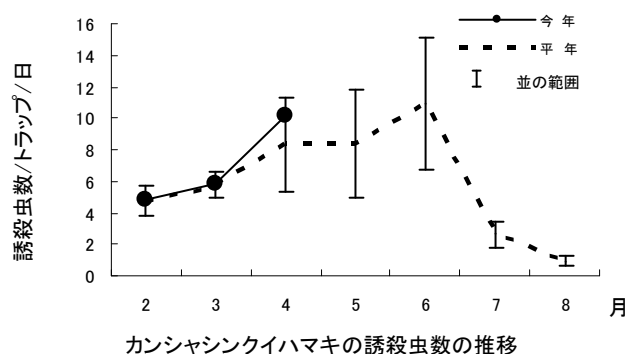
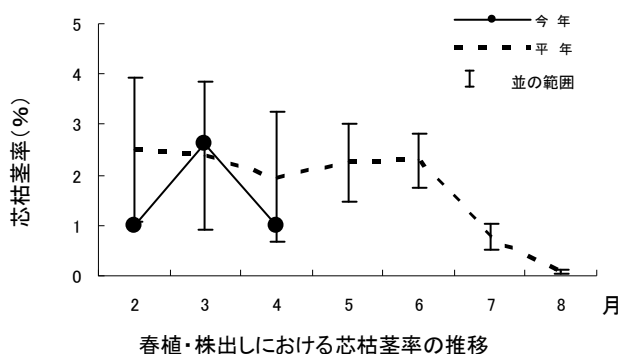
### 1 さとうきび

#### (1) メイチュウ類

発生程度 : 並

予報の根拠

- 4月下旬の調査の結果、春植・株出圃場における芯枯莖率は1.0%(前年0.5%、平年2.0%)と平年並であった。
- 4月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は10.2頭(前年6.1頭、平年8.3頭)と平年並であった。



#### <防除上注意すべき事項>

- ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる
- 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- 加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号(平成24年4月5日付)参照。

#### ○ サキシマカンシャシクイコメツキ(ハリガネムシ)の防除対策

- 4月の合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たりの誘殺数は0.4頭(前年1.2頭、平年3.1頭)と平年より少なかった。
- 更新圃場は速やかに古株などの残渣を処理し、植え付けまでに数回耕耘して幼虫密度の低減を図る。
- 培土時に他の土壌害虫の防除も兼ねた薬剤を選定し施用する。

## 2 マンゴー

- 炭疽病の防除対策
  - a 4月中旬の調査の結果、一部園地で発生がみられた。
  - b 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
  - c 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
  - d 果実肥大期は、治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。
  
- チャノキイロアザミウマの防除対策
  - a 4月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.1頭未満(前年0.1頭未満、平年5.9頭)と平年よりやや少なかった。
  - b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
  - c 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
  - d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
  - e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

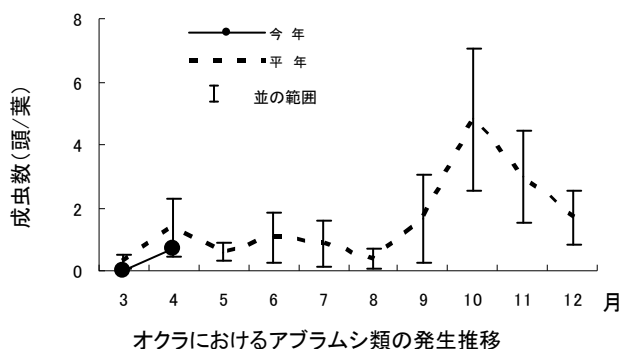
## 3 オクラ

### (1) アブラムシ類

発生程度：並

予報の根拠

4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.71頭(前年0.03頭、平年1.38頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- a シルバーポリテープ等を利用して飛来を防止する。
- b 圃場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源となるので除草する。
- c 多発すると葉は萎縮し、初期生育に影響を及ぼすので、早期発見・早期防除に努める。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



## 沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

本 所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880、098-886-0227 FAX 098-884-9119
宮古駐在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40(農研センター宮古島支所内) TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八重山駐在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6(農研センター石垣支所内) TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157